ぞなぞといふほどいと心もとなし、天にはりゆみといひ出たり、右のかたの人は、いとけうありと思ひたるに、こなたのかたの人は物をおぼえずあさましうなりて、いとにくゝあいぎやうなくて、あなたによりてことさらにまけさせんと云けるをなど、かたときの程におもふに、右の人おこに思ひてうちわらひて、やゝさらに云らずと口引たれて、さるがふ云かくるに、數させ〳〵とてさゝせつゝいとあやしき事、是云らぬ物たれかあらん、さらにかずさすまじとろんずれど、云らずといひいでんは、などてかまくるにならざらんとて、つぎ〳〵のも此人に論じかたせける、いみじう人の知たる事なれど、覺ぬ事はさこそはあれ、何かはえ云らずといひしと後に恨られて、罪さりける事を語出させたまへば、おまへなるかぎりはさはおもふべし、口おしく思ひけん、こなたの人の心ちきこしめしたりけん、いかにくかりけんなどわらふ、これはわすれたることかは、みなひとしりたることにや、

〔小野宮右衞門督家歌合〕をの、宮の右衞門のかみのきむだちの、物がたりよりいできたりける

なぞあはせ、左あをきうすやうひとかさねにかきて、松のえだにつけたり、かくなむ、

我ことはえもいはしろのむすび松千とせをふとも誰かとくべき

右はむらさきのうすやうひとかさねにかきて、あふぢの花につけたりしは、かくぞ、

おくていねの今はさなへとおひたちて待てふるねもあらじとぞ思

かくてえとかぬをば、をのがかた〳〵にとかせて、かちまけをさだむるに、人の心いづれもいづれもおなじやうなりければ、いとよくときつゝ、ぢにてあはせ〳〵たるにあなり、なかにかしこくもあらぬことに思ひあなづりたるにやありけむ、えたしかにとかず、右かたにかずひとつさゝれてまけぬ、

左　なぞこのごろにふるめかしきかするもの